

## 小麦新品種「シロガネコムギ」について

吉田美夫・北原操一・鶴政夫・桐山 毅・福岡寿夫

吉富研一・牛腸英夫・柏尾俊光・荒木 均

(九州農業試験場)

YOSHIDA, Y., KITAHARA, S., TSURU, M., KIRIYAMA, T., FUKUOKA, H.,  
YOSHITOMI, K., GOCHO, H., KASHIO, T. and ARAKI, H.  
A New Wheat Cultivar "SHIROGANE-KOMUGI"

登録番号 小麦農林117号(系統名:西海120号)

来歴 昭和32年に、九州農業試験場において、シラサギコムギを母とし、西海 104号を父として人工交配を行ない F<sub>4</sub> に由来する派生系統として、派生系統育種法によって選抜および固定をはかってきたものである。昭和40年度(F<sub>9</sub>)より西海 120号の系統名で関係各県に配布し、地方適否試験に供試した。昭和49年度における世代は、雑種第18代である。

本品種は、農林61号と比較して、次のような形態および生態的特性をもっている(第1表参照)。

形態的特性 短かんで、穂長はやや短かく、穂数が多い穂数型の品種である。そう(叢)性は中間型で、株は

やや開いている。稈色は白色で、小穂着生密度は密である。子実の充実はよく、1ℓ重はやや重い。粒色は黄褐色である。穂型(紡錘状)、芒の長短・多少、かんの太さ、葉色、葉幅、粒形、粒の色沢、干粒重、硝子率、固定度などについては、農林61号と同様である。

生態的特性 出穂期で6日、成熟期で4日早い早生品種である。約12cm短かんで、耐倒伏性が大きい。早生であるとともに多収であるが、多肥・密ばん栽培をすると一層多収になる。株はやや開いているが、手刈りにも機械刈りにも差支えない。品質は、外観的にも、内容的にもよい。耐病性については、縞い縮病、白渋病にはより強く、黒さび病、赤かび病については同程度であり、赤

第1表 シロガネコムギと農林61号との比較

形 質		シロガネコムギ	農 林 61 号	試 験 実 施 農 試 名
出 穂 期 (月・日)		4.14	4.20	九 州
成 熟 期 ( " )		6. 2	6. 6	
か ん 長 (cm)		78	90	
穂 長 ( " )		9.1	9.5	
穂 数 (本/m <sup>2</sup> )		438	385	
1 ℓ 重 (g)		753	743	
千 粒 重 ( " )		32.4	32.6	
1 穂 着 粒 数		33.0	28.8	
収 量 (kg/a)	標 準 栽 培	41.8 (119)	35.1 (100)	
	多 肥 栽 培	45.1 (130)	35.3 (100)	
	密 播 多 肥 栽 培	52.8 (133)	40.2 (100)	
	平 均	46.6 (127)	36.9 (100)	
穂 発 芽 性	難	難		
縞 縮 病	強	やや弱		
黒 さ び 病	やや強	やや強		
耐 倒 伏 性	強	やや弱	岡山, 九州	
品 質	良	中	熊本, 香川, 中国, 食総研, 九州	
赤 さ び 病	中	やや強	静岡, 九州	
赤 か び 病	やや強	"	鹿児島, 高知, 東海近畿, 九州	
白 渋 病	強	"	長崎, 九州	

注)九州農試における成績は、約10ヵ年間の平均値を示す。

さび病にはやや弱い。なお、まき性程度はⅡであり、穂発芽性については同程度である。

また、本品種は、シラサギコムギと比較して、次のような特性をもっている。

出穂期で4日、成熟期で3日早生である。約13cm短かんで、耐倒伏性が大きい。穂長はやや長く、穂数は多い。多収である。1ℓ重は重く、千粒重はやや軽く、品質および赤かび病については同程度である。

**栽培上の注意** 短強かんで、倒伏に強いので密ばん

(ドリル、全面全層まき)多肥栽培にすることが望ましい。

**適地および奨励品種採用県** 本品種は、九州中部以北および瀬戸内海沿岸の平坦地帯に特によく適応し得るものと考えられる。現在、佐賀県および兵庫県において奨励品種に採用される予定であり、佐賀県では4,000ha、兵庫県では1,000haの普及が見込まれている。

**命名の由来** 白稈の系統で、熟色が淡黄色で白金のように美しく、また豊産で収益が多い意。